
雨上がりの空 4

奈津美

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨上がりの空 4

【Nコード】

N9037B

【作者名】

奈津美

【あらすじ】

※これは、雨上がりの空3のリメイクです。少しでも文章を変えてみました。平×和のほのぼの？話です。

ザーザー

今日は、朝から雨が降っていた

しかも・・・ドシャ降りである

空は真っ黒な雲で覆われてしまっている

なんで大事な時に雨って降るんやろか

神様って意地悪やなあ

平次とのデートやって日に降らさんともええやないか・・・

そう、今日は平次と和葉のデートの日だったのだ

「・・・止まへんな。」

「・・・そうやな。」

雨だから、ということだろうか

それとも、デートに行けないという悲しさからだろうか

二人はいつもの元気を出せずにいた

スケジュール
お互いの予定を変更しながら

このデートの計画を立てていたので

二人共、がっかりしていた

一日中、遊園地で遊ぼうと思っていたのに

さすがに雨の中、遊園地ではお互い風邪を引くだろう

「はぁ・・・なんでやる。」

平次は、ベットに腰をかけた

和葉はその場にペタンと座り込んだ

平次の部屋にずっとぐーたらしてるのなんて嫌や

本当に、行きたかったのに・・・

もっと素直になれたら、ここで言っていたのだろうか

『何で雨なんて降るんやろ、せつかくのデートなのにな
平次と行けるって楽しみにしてたんやで、私・・・・・・・・』

言ってしまうおうか

けど、やはり恥ずかしい

素直になれない自分がこんなにもどかしいと思ったのはいつ振りやろか

和葉は、ザーザーと降る雨の音に、正直ウンザリしていた

濡れている窓ガラスに映る自分の顔

可愛くないなあ・・・私

とてもゆがんでいた自分の顔に、吹きだしてしまった

「何やねん、気持ち悪いやないか。」

「だって・・・ガラス見てやあ。」

「アハハハハ！何やねん、えらいブツサイクやなあ。」

「な・・・そこまで笑うことないやないか！」

やっといつもの二人らしくなったというところだろうか

少しずつ、弱くなる雨と裏腹に

少しずつ、元気になっていく二人がいた

そんな中、平次が和葉に微笑みかけた

「・・・今度は、晴れた時に行こうな！」

「え・・・？」

「だから・・・デートや！」

「・・・うん！」

ポツポツ・・・

段々と聞こえなくなる雨の音

気がつくと、雨は止んでいて

黒い雲はどこかに行ってしまった、青い空が顔を出した

なんて綺麗な空なんだろう・・・

「平次・・・あれ見てえ。」

「え・・・？」

和葉は空を指した

空には綺麗な虹が出ていた

平次はすぐに立ち上がり、窓まで歩いた

二人はしばらく見とれていた・・・

平次は和葉の頭をくしゃくしゃに撫でた

和葉は怒ろうと思ったが、虹を見ていたらそんな気持ちも和らいだ

・・・とっても温かいなあ

「綺麗な、平次。」

「・・・和葉。」

「何や？」

「また、見ような。」

「何を？」

「二人で、虹見ような！」

「・・・うん！」

平次は近くにあった、上着を羽織った

和葉は虹に見とれている

「行くで、和葉。」

「へ？」

「デートや！晴れたんやから行かへん？」

「・・・喜んで！」

和葉は待ってえなあゝと平次を追いかけた

平次は先に、玄関から出て行った

和葉は、顔を真っ赤にしながら平次の手に自分の手を近づけた

平次は和葉の手に気づいたのか、ギュッと握った

細いけど骨ばった男の子の手に、和葉はドキドキしていた

幸せやで・・・平次

「なあ、和葉。虹も綺麗やけど・・・雨の後って色んなもんが綺麗やな。」

「うん！水溜りも、太陽の光でキラキラしてるで！」

「ああ、葉っぱについとる雫もピカピカしてるで。」

「けど・・・一番綺麗なんは。」

和葉は上を見て、指を指した

「な、綺麗やろ？」

「ああ・・・綺麗やな。」

「ほな、早お行こう！」

「ああ、そやな！」

二人は手を繋ぎながら、真っ直ぐ続く道を走った

「なあ・・・和葉。」

「何や？」

平次は突然立ち止まり、繋いだ手を離した

和葉は悲しい顔をする

・・・やっぱ、手繋ぐの嫌やったかな？？

「・・・。」

ギュッ

平次は和葉を強い力で抱き寄せた

ドキドキドキドキ

あかん・・・こんな近づいたら心臓の音・・・聞こえてしまう

しかし、平次の胸からも

ドキドキドキドキ

・・・平次の鼓動が聞こえる

「俺、和葉のこと好きやで。」

「平次・・・。」

「今まで・・・素直になれなかったんや。」

「私もやで・・・平次。」

「何や・・・俺たち、やっぱ兄弟みたいやな。」

「な・・・何よそれ・・・。」

平次は甘い口付けで和葉の口を塞ぐ

唇から伝わる思い

それは“愛”だった

雨上がりの空の下、二人は幸せそうに微笑んだ

そして、また手を繋いで走り出した

希望に満ち溢れた笑顔で――――

(後書き)

奈津美 D E | 。 + . 、 (* ' ∇ *) ノ 。 + | S II !

3は、読者数が伸び悩んだ作品だったんで

4にして、たくさんの人に読んでもらいたいという
思いをこめて、文章を直しました

まだまだ荒削りですが、読んで下さい。

評価下さい (O * 。 | 。) O ペ コ ッ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9037b/>

雨上がりの空 4

2010年10月21日23時08分発行